

学力の基礎をきたえ どの子も伸ばす研究会ニュース

NO. 361

学力研の広場

2025. 4. 7

学 力 研 発 行

常任委員長 岸 本 ひ と み

郵便振替 00920-9-319769

ホームページアドレス <http://gakuryoku.info/>

信頼のないところに教育はない。子どもの信頼、保護者からの信頼は100倍の力、100倍の教育的効果をもたらす。「人がよい、子どもにやさしい」、それだけで信頼を得てはならない。教師には“専門家”としての輝きが求められているのだ。人間としてのやさしさ、初等教育の専門家としての凛々しさ、保護者は凛とした大人の教師に子どもを託したいのだ。子どもは凛とした大人の教師との触れ合いに心震わせる。「信頼」とは教師の行為によってつくられ、次の行為への期待として存在する。「信頼を得て、劇的にクラスを変える」、この最初の一步は凛としたあなたの行為から始まる。

久保齋「子どもと保護者の信頼をつかむ!学級づくりと学級経営の技88」(2013.7小学館)

CONTENTS

◇特集「国語・算数特集」◇

国語と算数について子どもにも保護者にも語れる教員でありたい	鈴木基久・・・2
たった一つのルールで教室をつくる	加藤英介・・・8
授業で大切にしていること ～算数・国語～	根無信行・・・10
つまずきを楽しく乗り越える授業づくり～「アクティブ算数」～	図書啓展・・・12
音読とノート指導で子どもたちの信頼を得る	吉田雅直・・・14
『好き』と『楽しい』との出会いを意識した授業開き	福島 尚・・・16

◇連載◇

「どの子も伸ばす」を本気で考える連載 78「意欲格差」に負けない!公立小学校へ	岡本美穂・・・18
考える力をつけるための授業の組み立て方㊸グラフと表で数学的思考力を高める	荒井賢一・・・20
社会科(歴史)授業力アップ講座 ㊸指導法研究㊸	深澤英雄・・・23
「春の大分集会」講座報告	常任委員・・・25
子安 潤著『貧困化する授業からの反転』(学文社)の紹介	金井敬之・・・27
『スマホはどこまで脳を壊すか』の講演会報告	相原美樹・・・29
局長・常任委員長だより	・・・30
学力研カレンダー	・・・31

※久保先生の連載は、都合により休載させていただきます。

国語と算数について子どもにも保護者にも語れる教員でありたい

鈴木基久

文部科学省は2022年4月から小学校高学年での「教科担任制」を導入した。一言で教科担任制と言っても、「中学校並みの完全教科担任制」「特定教科における教科担任制」「学級担任間の授業交換」など、その形式は学級数や目的などによって様々である。文部科学省は優先対象教科として外国語・理科・算数・体育を挙げている。なお、2025年度からは教科担任制が小学校中学年に拡大される方針が示されている。

前任校は、5・6年生がそれぞれ4学級の学校だったので、「学級担任間の授業交換」を国語と算数で行った。新規採用3年目のA先生は初めての6年生担任になり、2学級の国語授業を担当した。翌年も6年生担

任になったA先生は、担任の顔ぶれが変わったこともあって、今度は算数授業を2学級担当した。この例から、交換によって国語と算数の指導経験が十分積めるのか疑問を感じた。

5年生でも国語と算数の授業交換を行った。5年生の算数は、指導すべき内容が多くて難しいので、家庭学習などの授業以外の指導も組み合わせる学習内容を定着させる必要があった。しかし、この年は初めての取り組みであったため、教科担任と学級担任との連携、役割分担がうまくいかなかった。年度末の話し合いで、5年生の国語と算数の授業交換はやめて、学級担任が国語と算数の授業をする形に戻すことになった。

小学校の教科担任制は、免許状に紐づけされているわけではないので

わずかに加配教員がつく程度であって、中学校並みの完全教科担任制が実施できる公立小学校はほとんどないと思う。学校規模、学年職員の顔ぶれによって担当教科が変わるので一貫した専門性を磨くことは難しいという課題がある。もちろん、外国語や音楽、理科などの専科教員による授業は、専門性が保証されるので各自治体にもっと推進してほしい。

このようにデメリットがある小学校の教科担任制がさらに中学年にも拡大されることには個人的には大反対だ。特に時数が多い国語と算数を学級担任が受け持つことは多くの時間を子どもたちと過ごすことになり、学級担任制のよさにつながると思う。さらに、保護者との面談で児童の国語と算数の学習状況について語り、アドバイスできることは保護者からの信頼を獲得するために欠かせない。国語と算数の力を伸ばすためのアドバイスができることは、学級担任にとって必須だと私は考えている。

近年、私は2年生、3年生の学級担任が多い。4月に毎年やっているのは「ひらがな50音表」と「かたかな50音表」と「絵を見て書くかたかなテスト」だ。ひらがな50音表は2分以内、かたかな50音表は2分半以内を合格の目安にしている。文字がすらすら書けないと、ノートを書くのにすごく時間がかかる。50音順が分かっていると、3年生の国語辞典の学習で言葉が見付けられないことになる。かたかなは、ときどきしか書かないので3年生でも書けない文字が複数ある子が必ずいる。「絵を見て書くかたかなテスト」は、サンタクロースやケチャップのような長音、促音、拗音の表記が正しくできているかをチェックできる。これらは実態調査の意味でも4月に取り組んでおくと思いと思う。

さらに「多層指導モデルMIM」のアセスメントを実施している。これは、すらすら読めているかを簡単にチェックできるアセスメントである。

る。詳しくは「多層指導モデルMIM」で調べてみてほしい。

3年生の算数でのおすめは、わり算の単元で使える「ときどきわり算」と「にこにこわり算」と「面積図」である。（面積図については次ページ参照）単元の後半に「15÷3になる文章問題を作りましょう」という問題があるのだが、等分除と包含除の区別がつかない子が多く、なかなか正しく答えられない。この問題に正しく答えるためには、等分除と包含除のイメージをしっかり持つことが必要なのだが、教科書の説明では等分除を「一つ分を求めるわり算」、包含除を「いくつ分を求めるわり算」としていてイメージがつかみにくい。そこで学力研でこれまで実践されてきた「にこにこわり算（等分除）」と「ときどきわり算（包含除）」を単元の最初から教えて子どもたちが問題場面をイメージできるようにする。15÷3で言えば、にこにこわり算は、「15個の飴を3人で同じ

数ずつ分けます。一人分はいくつでしょう。」となる。3人はいくつ分らないが飴が確実にもらえることで、にこにこ待っていられるため、「にこにこわり算」と言う。ときどきわり算では「15個の飴を一人に3個ずつ分けると何人に分けられるでしょう」となる。この場合、飴が必ずもらえるか分からず、ときどきしながら待つので、「ときどきわり算」と言う。わり算を理解するための「面積図」は、「あまりがあるわり算」の学習でも使える。「面積図」が正しく書ければ答えが分かるので、算数が苦手な子におすすめる。

さらに5年生の「割合」や「単位量当たりの大きさ」の学習でも「面積図」は使える。高学年の学習にうまくつなげていく意味でも、3年生で面積図を使う意義はある。

もちろん、わり算の学習に入る前に、九九の復習や穴あき九九の復習をしておくことは必要である。

次頁以降は校内研修の資料である。

1 急がば回れ 計算力の底上げをして、授業しやすい学級にしよう。

計算の習熟が不十分なままでは、新しい学習内容を身に付けることができない。実態把握をせずに、前年までの計算が十分に身に付いている前提で授業を始めると、既習の計算がすらすらできない児童が授業についていけないことになる。子どもたちの計算力の実態を把握するために、百ます計算やA型わり算などでタイムを測定し、計算力の向上を図る手立てをうつ必要がある。

百ます計算などを行うときに大切なのは、人との比較ではなく昨日の自分と勝負することと、努力すれば成果があらわれる、やればできるという実感をもたせるような声掛けをすることである。一生懸命にやってもタイムが伸びないときもあるが、そこは気にせず、「頑張っていれば必ずタイムは伸びるよ。」「計算をする

と脳が活性化するんだよ。」と、褒め励まして継続して取り組めるとよい。

① 基礎計算の習熟を図る教材（計算の仕方を理解してから行う）

- ・百ます計算（ $+$ ・ $-$ ・ $\times$ ）
- ・わり算A型（割り切れる）、わり算B型（余りあり、繰り下がりがなし）
- わり算C型（余りあり、繰り下がりがり）

② 十進位取り記数法、時計、量などの計算以外の内容の習熟を図る教材

- ・「算数力がみるみるアップ！パワーアップ読み上げ計算ワークシート低中高」

③ 日常的に総復習をするのによい問題集

- ・「どの子もできる10分間プリント」（愛知教育大学生協のみで販売）

④ 前の学年、次の学年との隙間を埋める指導ができると子どもものつまずきが減らせる事例

「3年生 余りのあるわり算」

14÷3＝4あまり2

60÷3＝20 69÷3＝23

3年生では筆算形式を学習しない。商が2桁になるわり算は少しだけ。

「4年生 わり算」

92÷4＝23

4年生で筆算形式を初めて学習する。筆算形式に不慣れな上に、商が2けたになることにも慣れていない。

だから3年生の余りのあるわり算で、筆算形式を教えておくと4年生の学習にうまくつなげられる。

2 文章問題（演算決定）のカギは、単位量があるか、ないか。

「単位量あたりの大きさ」というと、5年の算数の重要単元である。しかし、実際には単位量の学習は、2年生から始まっている。かけ算の学習で、

問 ドーナツが1箱に5こずつ入っている。4箱分ではドーナツは全部で何個か？

問 2人がけのいすが5つあります。全部で何人座れるか？

などで、「5こずつ」「2人がけ」のように単位量は出てきている。単位量があれば、かけ算、わり算であり、それがなければたし算、引き算になる。大雑把に言えば、小学校の算数は、低学年はたし算・引き算の世界、3年生から徐々にかけ算・わり算の世界になっていく。また3年生くらいだと、たし算とかけ算は答えが増えるから仲間で、引き算とわり算は答えが減るから仲間と思っている子が多いが、この考えは間違っていることを伝えてあげた方がよい。引き算の確かめをするのにたし算をすることや、わり算の確かめをするのにかけ算をすることから、たし算と引き算が仲間で、かけ算とわり算が仲間であることが分かる。また3・4年生のわり算は、整数限定なので商が大きくなることがないが、5・6年生のわり算では小数、分数のわり算となることから商が大きくなるこ

とがあると教え、わり算は答えが小さくなるというイメージを覆させておくとういと思つう。

倍で比べる本質的な意味を考えさせる授業

3年生のわり算の学習で、何倍を求める問題を学習するが、教科書は突然「クリップの長さは3cmです。筆箱の長さはクリップの長さの7倍です。筆箱の長さは何cmでしょうか。」となっていて、なぜ倍の考え方で比べるのかについて触れていない。そこで、こんな問題を考えた。

問 どちらのゴムが良く伸びるか。

Aのゴム…長さ5cmで伸ばすと

15cmになる。

Bのゴム…長さ10cmで伸ばすと20cmになる。

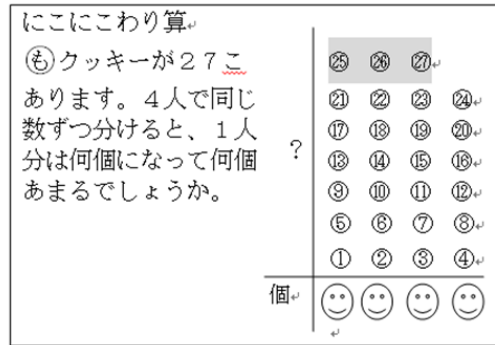
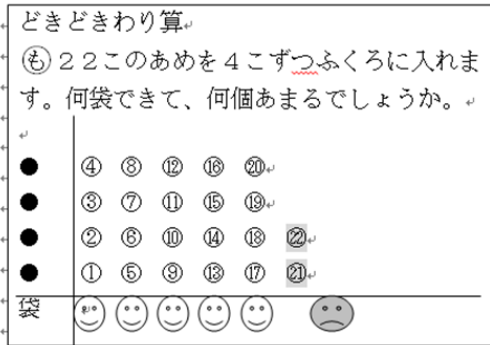
低学年の引き算で比べる方法に慣れているほとんどの子どもたちは、もとの長さより10cm長くなっていることに着目して、どちらも同じだけ伸びると答えた。でも、Aのゴ

ムを2本つなげて10cmにして伸ばすと30cmになることから、Aの方がよく伸びることが分かる。つまりもとの長さが異なるときは、引き算で比べるのではなくわり算（倍の考え方）で比べるのである。Aは15÷5=3でもとの3倍、Bは20÷10=2でもとの2倍に伸びる。こういったもまだわからない子には、お小遣いの話をする。Cさんは100円持っていて、お母さんから100円もらった。Dさんは1万円も持っていてお母さんから100円もらった。CさんとDさんはどちらがうれしいと思う？ 引き算で比べるとどちらも100円もらったことに変わりがないので同じとなってしまう。でも自分事として考えれば、100円しか持っていなかったCさんにとってももらった100円は全財産と同額なので重みのある100円であり、1万円を持っているDさんにとって100円は端金に過ぎない。つまりこの場合も倍の考え方で比べ

ているのである。比べるもののもと
の大きさが異なるときは、倍の考え
で比べることに気付き、これから高
学年の比べ方を学習していくよと確
認できた。

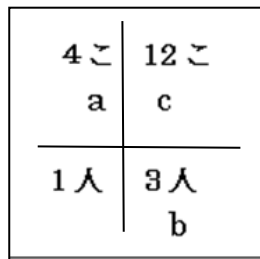
3 特におすすめ かけ算、わり算 単位量、割合では面積図が大活躍!!!

3年「わり算」では、等分除と包
含除を問題文から見分けることがで
きるよう、等分除のことを「にこに
こわり算」と呼び、包含除のことを
「どきどきわり算」と呼んできた。
「にこにこわり算」とは、一つ分の
大きさを求める場合で、いくつもら
えるか分からないが、●人に分けら
れると分かっている、つまり自分が
もらえることは保障されていて安心
できる分け方を表している。「どきど
きわり算」とは、いくつつ分を求める
場合で、何人まで分けてももらえるか、
自分がもらえるか分からないという
不安に思っている分け方を表してい
る。この言葉を繰り返し使うことで、



等分除と包含除の意味の違いが理解され、それぞれのイメージをもつことで、「15÷3になるわり算の問題を2種類作りなさい」という問題作りが正しくできる子が増えた。

面積図の説明
教育出版では複線図が用いられているが、私は他社の教科書で用いられている面積図をお勧めする。もちろん複線図の



面積図とは、上のように縦軸と横軸を書いた図である。数が大きいときや分数・小数では上のように数を書き入れる。求める答えに当たるところに？を書く。

長方形の面積のように考えると縦軸が縦の長さ、横軸が横の長さとなり、長方形の面積＝縦×横 のよう

方が好きだ、分かりやすいという人もいるだろうから、好みの問題であるともいえるのだが…。算数の苦手な子は、大抵数直線が苦手である。数直線が苦手な子が複線図を正しく書けるのか前から疑問に思っている。図は演算決定、立式に役立たなければ意味がない。図は正しく立式できない人の助けになって、初めて存在価値がある。だから算数が苦手な子でも書ける図でなくてはならないと考えると、面積図の方が簡単に汎用

になるため面積図という。面積図では、単位量を必ず縦軸に書く。問題を面積図に正しく表せれば、

cを求めるときは $a \times b$ でかけ算、
aを求めるときは $c \div b$ でわり算、
bを求めるときは $c \div a$ でわり算と分かる。

「単位量当たりの大きさ」でも面積図が大活躍

5年生の単位量には次のようなものがある。

混み具合…1m²あたりの人数

1人あたりの面積、

燃費…1Lあたりの距離

人口密度…1km²あたりの人口

ペンキ1Lあたりぬれる面積

リボン1mあたりの値段

問題 1Lあたり3.4m²の板をぬれるペンキがあります。①このペンキ2.5Lでは何m²の板をぬれるでしょうか。②また25.5m²をぬるには何Lのペンキが必要ですか。

① $3.4 \times 2.5 = 8.5$ 答え8.5m²

② $25.5 \div 3.4 = 7.5$ 答え7.5L
面積図では横に同じ単位の数が並ぶ。この問題では上段にm²、下段にLとなる。

①	3.4 m ²	?	m ²
	1L	2.5L	

②	3.4 m ²	25.5 m ²
	1L	?L

「割合」でも面積図、ポイントは「の」を「もとにすると」に翻訳

割合は、単位量あたりの大きさより難しい。それは同じ状況であつても、問われ方によって答えが変わってくるからだ。もとにする量を見つけられる読解力、国語の力が必要である。

問題 男子が10人、女子が20人いるとき、女子は男子の何倍か。

このとき「女子は男子の何倍か。」を「女子は男子をもとにする」と何倍

か。」と言い換える。つまり、**のをもとにする**とに翻訳する。こうすると男子がもとにする量だとわかる。割合の問題では、面積図の縦軸にもとにする量を書く。横軸が割合(倍)になる。だからこの問題は、 $20 \div 10 = 2$ 2倍となる。しかし同じ状況で、男子は女子の何倍かと問われたら、今度は女子がもとにする量になるので面積図も変わり、式は $10 \div 20 = 0.5$ 0.5倍となる。

実際の問題では、翻訳すべき「の」以外にたくさんの「の」が出てくるので、それを見極める力が必要になる。

面積図を使えば、よくある「くもわ」や「きはじ」で公式を覚える必要がなくなる。



たった一つのルールで教室をつくる

加藤 英介

はじめに

「勉強って楽しい。学ぶっておもしろい。」これは教師ならだれもが思い描く理想である。一方で「嫌いだからやらない。やつても意味がない。」これが4月に起こり得る現実である。目の前の子どもたちを理想に近づけるためのたった一つのルールがある。それが「習慣化」である。習慣とは、毎日同じことを続け、学級の中で文化となり、その子の中で取り組んで当たり前の状態にすることである。なんだそんなことかと思うかもしれないが、同じことを繰り返すことほど、簡単に難しいことはない。スタートダッシュは勢いよくできるが、失速してしまう場面は誰もが一度は経験することだろう。その理由は、日々の授業、行事、生徒指導、保護者対応と予期せぬ出来事が多いからである。無理なく続けるためには、誰でもできることから挑戦することである。

百日の授業のスタート

授業開きのときには次のような話をする。「今日から本格的に学習が始まります。勉強を頑張りたい。満点を取りたい。成績を上げたいなど、一人ひとり目標は様々です。今よりも成長したいとみんなが思っているからです。ところで、成長できる人はどうやって勉強していると思いますか。急にできるようになったのでしょうか。天才だからでしょうか。いえ、ちがいます。毎日コツコツ取り組んでいるだけなのです。人それぞれペースは違いますが、毎日取り組みれば必ずできるのが勉強です。授業でも同じです。満点を取るために受けようという気持ちで臨めば結果はついてきます。ときには、うまくいかないときや悩むときもあるかもしれませんが。そんなときは、先生に相談しても大丈夫です。みんなのチカラを伸ばすために先生はここにいます。今、

みんなの目を見てみると、きつとどこかで輝く瞬間が来ると感じました。〇〇さんは頷きながら聞いています、〇〇さんは目からビームが出そうな勢いで見えます、〇〇さんは背筋を伸ばして体全体で聞いてくれています…やる気にあふれているこの雰囲気大切に学習を進めていきましょう。みんな、チームで、ベストを尽くしていきましょう。」

国語の一日目

語りかけた後は、漢字学習に取り組む。漢字は、努力したらした分だけ結果として表れやすいからだ。市販のドリルを使って次のように進める。

・新出漢字の読みを一斉読みや交互読みなどで確認する。(音読み・訓読み・熟語・成り立ち・画数)

・新出漢字を一人で読み、指書きをする。
・空書きで書き順を確認する。いちに…と読んだり、ム月ヒヒ…で熊と頭でイメージできるようにしたりして書かせる。
・鉛筆をもって一文字目のみ丁寧に書かせる。クラスの全員が書き終えたら次の

漢字へ進み、一日3つ程度、取り組む。

- ・漢字クイズで熟語の意味を理解する。

ドリルの書いてある熟語の意味を辞書で引き、子どもに考えさせる。

- ・ミニテストをする。新出漢字が書けるかどうかテストをし、できた人からもつてこさせ、最初の三人は黒板に漢字を書かせる。

漢字を終えると、音読に入る。

扉の詩を読む。最初は教師が読み、次は一斉、交互、号車と何度も読ませる。その後、視写をする。教師は黒板に書き子どもはノートに書く。一行ずつ丁寧にゆっくり取り組ませる。書いた後、言葉を広げていくための発問をする。4年生の扉の詩「かがやき」を例に紹介する。

- ・季節はいつだろうか

- ・何時でしょうか

- ・みんなとは何人のことですか

- ・何をしているのかな

子どもたちと楽しくコミュニケーションを取る気持ちで、どんな意見も受け入れていく。その中で、明らかに違うものや答えがあるもの、想像を膨らませるもの

など、国語の時間の答え方についても考えさせる。そして「国語でかがやきたいことはありますか。ノートに書きましよう。」と伝え、書いた人から教師に見せ、授業を終える。そして、次の時間の最初に振り返りに書いたことをもとに発表をさせ、授業を始める。

国語の時間は、毎日一時間必ずある。

だからこそ、毎日同じような流れで取り組むことにより、子どもたちが安心して授業に臨むことができる。積み上げることによりテストもできるようになる。できるようになったことはどんどん続けたくなる。この学びのサイクルを大切にしておスタートする。

算数の一丁目

「算数が得意な人はいますか。逆に苦手な人はいますか。じゃあ算数は必要だと思う人はどのくらいいますか。もちろん、電卓やネットがあるからなくても生きていけるかもしれませんが、基本的な計算ぐらいはしておいても損はないと思います。ところで、みんなは高学年だから割

り算は知っていますか。掛け算はどうか。引き算も知っているの。じゃあ足し算は簡単なのか。では、どのくらいできるのか見せてください。」

と伝えて、百マス計算の足し算を配る。やり方を説明して一度解いてみる。

「あつ。そういえば、速い人は二分で解いていたみたいです。みんなはどう思う？」と聞き、プライドを引き出していきます。そして挑戦させる。すると、うまくいかない子が出てくる。そこで、「○○さんや○○さんがタイムを上げる方法を考えてくれる人はいますか。」と聞き、周りを巻き込みながらタイムを縮める。

このように、毎日やればできるという習慣を実感し、身に付け、体に染み込ませ、一年間をスタートすることで、できないことができるようになっていくきっかけをつくる。

おわりに

大事なのは、習慣になるまで続けることである。無理なく目の前の子どもに合った方法で今年も挑戦していきたい。

授業で大切にしていること ～算数・国語～

大坂 根無 信行

新年度が始まって、新しい学級の子どもたちと出会います。この時期は、何年新学期を経験しても、教師のほうも、ドキドキするものです。この一年、授業を通して、どんな手立てでこの子どもたちは力をつけていけるかな、そんなふうに考える時期だからです。持ち上がりでない子どもたちとの授業を始めるに当たって、いけばんつかみにくいのは、その子や、その集団の「つまりさ」だと思っています。前学年で担当された先生も、クラス分けて学力のことも考慮して行ってくれていますが、人間関係やアレルギの配慮などで、学力のみで均等に分かれているわけではありません。加えて、子どもたち個々のつまりさは、引き継ぎだけでは正確にはつかめません。そんな子どもたちの、得意・苦手・つまりさを理解することから、授業が組み立てられるようにしていきたいと考えています。

一、授業のステップを、子どもと一緒に意識する

どんな学級にしたいか、一年間を見据え学級像を思い描こうとすると、仲のいい・元気な・

落ち着きのある、積極的な、など様々な想いが巡ります。その思いを描く学級で、一番長く過ごす活動が「授業」です。時間にして学校にいる一日の時間の約65%です。その時間に学級の姿が現れていることが大事ではないでしょうか。学力研で学んだことに、「学力づくり」を学級づくりの中心に据え、取り組むことの大切さがあります。算数・国語に限ったことではないですが、自分が思い描く理想の学級像は、学力づくりで伸びていく、しつとりとした学級です。

ステップ⑤	友だちの意見と意見を合っめる
ステップ④	授業のめあてにそって学習でき、授業の言葉を使ってふり返りが書ける。
ステップ③	自分の答えを用意できる 友だちの意見を聞ける
ステップ②	全員で先生の伝えたとおりに読んだり書いたりできる
ステップ①	チャイム着席 私語ストップ45分

こちらは、学力研の学習会で提案があり、3年前から自分の学級づくりに合わせて作った「授業のステップ」です。学級の子どもたちが、

授業の中で、今どのステップで授業を行っているか、意識できるようにしています。算数でいうと、ステップ②では、ノートづくりの力がそろうことも必要です。また、ステップ③に上がるためには、計算力に差がありすぎる集団ではできません。時間内に、授業が進みきらないで終わってしまうでしょう。そういった課題を、教師も、子どもたち自身も一緒に意識して、授業を進められたらとの考えでおこなっていることです。教室に常時掲示して、今いるステップに印をつけ、いつでもふり返られるようにしています。

二、計算力ふりかえり調査を行う

職員室で、こんな会話を聞くことがあります。A「この学年の子、わり算の筆算難しいわ。」

B「おかしいな、こんなに毎日練習してるのに。」

C「次の図形の単元、少し入るの遅らせて、もうちょっとわり算しようか」など。

これは、子どもが、集団としてわり算が苦手、練習量が足りないために定着していない、という思いがある時に、交わされていた会話です。けれども、この方法ではこの学年の「わり算の苦手」を、一気には解消できません。計算

(特に筆算)では、子どものつまずきが、ひとつではないからです。もちろん、習熟ができていないために定着がない子もいます。でも、例えばわり算の筆算だと、他に、商立てができない(わり算の感覚が弱い)、九九が不正確、どの数とどの数をかけたらいのか、わり算のアルゴリズムが身についていない、位取りで間違える、繰り下がりの引き算が苦手など、子どもによつてバラバラです。そんな、子どもがつまずいているところはどこにあるのかを見つけるための手立てとして、計算力実態調査が有効だと考えています。

学年の初めに、前の学年までの基礎計算の調査をし、どんなつまずきがあるか、どの計算が弱いのかを調べ、教師が知ります。もし、ひき算の繰り下がりの弱い傾向にあるなら、わり算の筆算に入る前に、ひき算の繰り下がりをさかのばりして、しばらく練習してから単元を進めていきます。すると、新しい「わり算筆算」の過程でのつまずきに焦点を絞って学習をすすめることができ、授業中に計算にかかる時間の個人差が減り、一斉授業がしやすくなります。

年度始めに計算実態調査が難しいときは、年度終わりに学校で調査を行ってもらい、そのデータを引き継がせてもらって、活用できま

す。学校ぐるみで毎年の取り組みになれば、効果的だと思います。

三、言葉を大切にしたい国語

授業でも、テストでも、言葉を通して学ぶ、課題を解く、友だち関係のコミュニケーションも、言葉を通して上手にとる。授業で言葉を使いこなせるように学ぶことが、国語で大切にしていることです。『周りや人を見て行動し、態度を決めている状態』から、『言葉で考えて、行動できる状態』へ、育ってほしいと思っています。

例えば、高学年になると、髪染めやピアスに憧れる子が出てきます。髪染め、ピアスが学力と連動しているわけではないので、それを力で押さえ込んでも、学力は回復しません。でも、学力がつくと、髪染めがなくなったり、ピアスをしてこなくなったりしたことは、実際にあります。言葉で表現することで、自分を見た目で誇示する必要がなくなり、金髪茶髪を親に勧められても、断る自我が育つからです。それが、言葉を通して賢くなれたと思えるのです。言葉で伝えられたことを言葉で理解し、自分の思いも言葉で伝えることが出来る。人間の行動を変えるのは、外からの「力」ではなく、「言葉」による中身からなのだと思います。

読む・書く・聞く・話す、国語の活動は様々ですが、「言葉を増やす」ことがそれぞれの活動を豊かにすると思っています。漢字の学習、熟語の理解、3年生以上は辞書引き、つなぎ言葉、主語と述語の対応、様子を表す言葉、人の気持ちを表す言葉、教科書で取り扱っている時期だけでなく、年間を通して、意識して触れるようにしています。こつこつ増やした言葉は、子どもの表現を豊かにします。

四、孤立の個別化でなく一斉授業を

タブレットの学校への急速な浸透で、今、中心になって進められているのが、市販の「タブレットドリル」の導入です。それは、残念ながら一問一答形式のものが多く、算数では計算スペースが小さく画面上にしかないため、計算は紙にして答えを記入したり、漢字書き取りも手書きでは予測変換できれいな活字に直されたりします。学校に来なくても、個人でできる仕様です。もちろんICTの便利な機能は活用しますが、学校では、集まるからこそ出来る一斉の授業を大切にしていきたいと思っています。

そのために、これからも学力研をはじめ、授業づくりの講座で学び、子どもたちに返していくようにしたいと思っています。

つまずきを楽しく乗り越える授業づくり「アクティブ算数」

図書 啓展(ずしよ ひろのぶ) 大阪みなみ学力研

●つまずきやすい所を楽しく学ぶ

「倍の計算がたのしくておもしろかった。」

「□を使った式はいろいろわかって、楽しかったです。」

「いっぱいがんばってしたらできるようなった。」・・・子どもたちの声です。

3・4年の算数少人数担当をしています。

私が算数の授業づくりで大切にしていることの第一は、子どもがつまずきやすいところを楽しく教えたい、ということです。

例えば、3年生で小数を学習します。小数のたし算・ひき算での子どもたちのつまずきは、①位を揃えるのを忘れる②「小数

$$\begin{array}{r} 3.0 \\ +15.4 \\ \hline 4 \end{array}$$

点」をよく打ち忘れる、ことです。

そこで、3+15.4なら、まず3.0+15.4と書かせて

位を揃えさせる所からスタートします。次に、小数第一位から足すと4となり、ここで登場するのが

「小数くく テントウムシ!」



です。

$$\begin{array}{r} 3.0 \\ +15.4 \\ \hline 18\text{瓢虫}4 \end{array}$$

そう唱えながら

黒板に貼り、小数点を忘れないように印象づけます。

子どものノートでは、4の次に小数点を打ち、続いて8、そしてーを書くように話し合います。

決して後で点を打つのではなく、小数第一位の数字を書いた次に打つ、または計算

前に先に小数点を打つようにするのです。

これでミスは激減します。「位を揃える」という言葉よりも「小数点を揃える」という方がわかりやすい子もいます。言葉かけも要研究ですね。

このような楽しい学び方を「アクティブ算数」と名づけて整理しました。詳しくは「算数アクティブ授業術」(フォーラム・A 図書啓展・岸本ひとみ共著)をぜひ参考に。

第二は、授業で練習問題をする時間の確保と一人ひとりの理解度の把握です。

いくら活発な授業ができて、「練習問題の残りは宿題」なんてやると、できない子続出です。最低10分から15分は問題練習ができるよう逆算しながら授業を組み立てています。「先生問題」を出す時もあります。

問題数が多い時はどうするか? 事前にこちらで式を書いておくなどプリントにし、①型の違う3・4問だけ先に持って来させて○つけをしてやる ②それが○の人から残りをする ③残りも○になったらノートに貼り、小先生になる ④教師は遅れがちな子のフォローに重点を置く というシス

この一年、できる所からスタートし、ともに算数の授業をイキイキと充実したものにしていきましょう。

音読とノート指導で子どもたちの信頼を得る

大阪 吉田雅直

この原稿が届くころは、始業式を目前にしてどんな学級開きをしようかとイメージを膨らませている時期ではないでしょうか。

私も、始業式の日の子どもたちとの出会いは大切にしていきますが、それ以上に、国語の「授業開き」に力を入れています。それは、私が「学力づくり」こそが「学級づくり」の基盤であると確信しているからです。始業式の日

の学級開きで「みんなで力を合わせて楽しいクラスにしていこう」と子どもたちに宣言したことを、具体化し、説得力を持って改めて伝える場が「授業開き」だと考えています。

まず、教科書を丁寧に扱う指導から始めます。新しい学年の教科書を初めて開く時はどの子にとってもひとつ上の学年に上がったという喜びがあふれるうれしい瞬間です。そこで、表紙から一ページずつ、丁寧に折り目をつけていく指導をします。そうすることで、

学習用具は大切に扱うという価値観を伝えます。ものを大切にできる子は友だちを大切にし、人の気持ちを大切にできるからです。だから、鉛筆一本でも落ちていたら徹底的に持ち主を探します。そうしないと、落とし物だらけのさががさしたクラスになってしまいます。教師自身が物を大切に扱うという行動規範を示すことで、その価値観が子どもたちに浸透していくのです。

次は、教科書の「とびらの詩」で音読指導をします。音読は学力の基礎を鍛えるだけでなく、そのまま学級づくりにもつなげることができる最重要課題だからです。

まずは子どもたちに音読が最も効率よく脳を鍛える学習活動であることを学年に応じた言葉で伝えます。そして、音読が得意になれば国語が得意になり、国語が得意になればあらゆる学習が得意になることを熱く語ります（これは、学級通信や学級懇談会で保護者にも伝えるようにしています）。そして音読が苦手な子も先生と一緒にみんなで練習すれば必ず上手になることを子どもたちに約束します。大切なのは、子どもたちに「今年の先生は音読にものすごくこだわっているな」と思わせることです。

まずは、姿勢と本の持ち方から。低学年なら「足はぺたん、背中らびん、両手で本を持ちましょう」を合言葉に指導します。高学年なら教科書を両手で持つ必然性について考えさせます。教科書を机に置いて下を向いて読むと、声帯が圧迫され、いい声が出ないことに気づかせたいからです。これは、教師の指示にはすべて教育的な意味があり、科学的な根拠があるということを伝えるためでもあります。学習規律は、厳しく指導するより、子どもたちがその意味やよさを納得できるように説明してあげることが大切だと思うからです。

次は、声の出し方です。声を「はる」という感覚がない子や、「大きな声で」というとすぐに叫んでしまう子がいます。声をはるためには、まず息を深く吸いこむ練習からします。

「かしこそうな顔で」と言うと「さけぶ」子がいなくなります。音読する前には「声を出す」「声を出す」「声をはる」「声をはる」と復唱させることで、「出す」と「はる」のちがいを意識させるようにしています。

次に、語頭の発音のしかたを指導します。「くまさんが、ふくろをみつめました」ならくまさんの「く」、ふくろの「ふ」、みつめたの「み」をはっきりと発音させるのです。こうすることで、だんだん読みから抜け出すことができます。子どもたちも自分たちの読みが一気にレベルアップするのを感じることでできるので、ここで「すごい、めちやくちや上手になった!」と大いに評価すると、一気にやる気アップで音読が大好きになります。さらに、句読点を意識した読みを指導します。「くまさんが、」の読点までは一息で読み、軽く息を吸うことで、次の「ふくろ」の「ふ」がはっきりと発音できるようになります。句点(。)では、少し長めに息を吸い、聞き手が「くまさんがふくろをみつけたんだな」と想像できるだけの間を与えます。高学年なら、読点には「ここまでは一息で読んでほしい」という書き手の意図が込められているこ

と(書き手意識)や、初めて聞く人にも内容が伝わる読み方(聞き手意識)も伝え、一年間かけて「高学年の音読」を目指すことを伝えます。

このように、低学年にはみんなで声を合わせる楽しさを、高学年には音読の奥深さを伝えることで、音読を単なる学習活動から「教室文化」へと高めることができるのです。

次に、私が授業開きで大切にしているのがノート指導です。最近はタブレットやワークシートの多様で、きちんとしたノート指導を受けていない子も多いので、どの学年でも一から指導します。低学年なら「だまって書く」「マスいっぱい書く」「先生と同じ速さで書く」というのをルールにしています。高学年なら、字の大きさを指導します。漢字は100%、ひらがなは80%、題名は二倍の大きさで書くように指導します。「ひとマスあける」「一行あける」などの指示も徹底し、板書と寸分違わぬノート作りを要求します。すると、どの子もバランスのとれた美しいノートになります。この「先生の言うとおりにしたらきれいなノートを作ることができた」

という達成感が、教師への信頼につながり、学習規律や学級づくりのベースとなるのです。ノートは子どもたちを豊かにつなげるツールでもあります。ポイントは「ふりかえり」の書かせ方にあります。「〇〇さんの」という意見で、とということがわかった」と書かせること、で、「誰の意見か」を意識するようになり、友だちの発表を聞くようになります。また、ふりかえりを共有することで「自分の意見が友だちをかしこくした」ことに気づき「授業はみんなでかしくなる場である」という価値観が共有されていくのです。

このように、国語の授業開きでは、音読とノート指導で教師の「本気」と「こだわり」を伝え、先生の言うとおりにすると「上手に読めた」「きれいに書けた」という達成感や心地よさを感じさせることを大切にしています。音読とノート指導は、どの学年でも一年間通して取り組むことができ、成長を実感しやすいという「よさ」があります。凛々しい音読と美しいノートは保護者の信頼を得ることもできます。まずは授業開きとして、ぜひ取り組んでみていただければと思います。

『好き』と『楽しい』との出会いを意識した授業開き

福島 尚（神奈川県）

算数は、国語の次に年間授業時数が多い教科になりますが、そもそも『算数の学習を行う目的』は、何だと思えますか。

①主要教科だから？

②数学的な資質・能力を高めるため？

③算数好きの子どもを増やしたいから？

など、様々な理由が思いつくかもしれませんが、学習を進めていく上で、どのような目的があるか意識しながら指導しているかが重要だと自分は考えています。自分は、算数の学習を行う目的は、

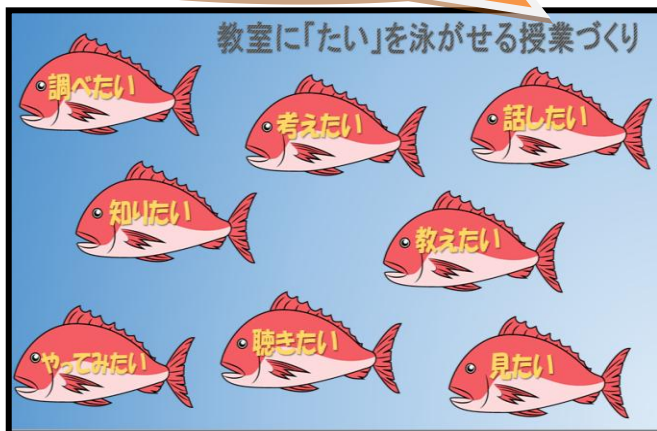
.....
学ぶことが大好き！

友達と考えることが大好き！

.....
挑戦することを楽しむ自分が大好き！

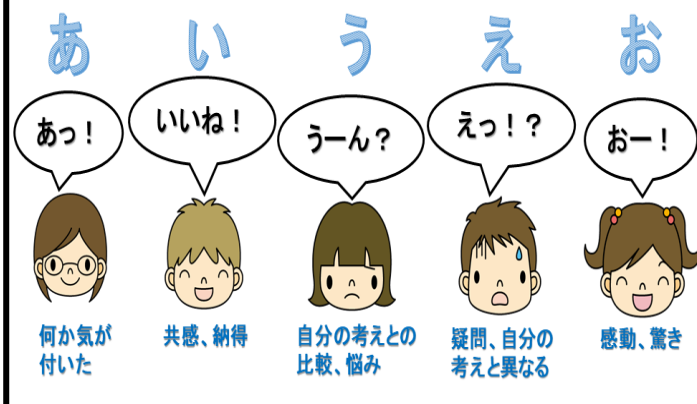
.....
という子どもを育てるためだと考えています。つまり、算数の授業を通して、たくさんの『好き』と『楽しい』との出会いをつくるということです。算数だけではないですが、

発問の工夫や課題の提示の仕方
「たい」が教室にたくさん泳ぐ！



子どもたちは「好きになる」と「夢中になり」、「夢中になる」と「自信へ」とつながっていきます。そのために、四月の授業は「たい」を泳がせる授業づくりを目指していきます。そのために時間をかけて教材を

子どもから「あいうえお」が聞こえる授業づくり



用意して授業に臨むかというと、おそらく目を惹く様な教材を子ども達は楽しい！と感じると思います。昔はそんなことを四月に行っていたこともありましたが、しかし、結局それでは長続きしないだけでなく、子ども達に本当の楽しさが伝わりませんでした。そうではなく、どのような課題を提示し、どう発問するか、ということを考えることが大切だと思います。そのような授

業は、子どもたちから「あ・い・う・え・お」がたくさん聞こえてきます。

四月の授業開きでは、どの学年でも教科書をみんなで見る時間とります。その学年でどのようなことを学ぶかの確認だけにすると何も楽しくないので、生活と関わっていることを教師側でピックアップしておき、紹介しながらもつと知りた、考えたという気持ちを高めるようにしていきます。すると、苦手な子ども達も算数って楽しいかもしれない、と心のハードルが下がります。すると、段々と積極性が生まれます。一年生は特に授業そのものが初めてなので、教科書からたくさん発見していく機会をたくさん設け、心を開放して発言できるムードをつくるのが大事です。みんなで見える楽しさを感じ、学ぶことが楽しい！と実感できる授業・・・「〇〇たい」がたくさん泳ぐように投げかけ（発問）を工夫し、繰り返し取り組ませていきます。最初は見つけたことが国語的なことでもOKとします。そして、発見した様々なことが算数的な観点へ近づいていくように意見を

4月

ふりかえり
3日は10倍の数をたくさん書いたのて0を
書いてなとて思いました。0ね!

6月

10月

ゴールの姿を意識し、いつ、どのように取り組ませていくか、教師が見通しをもっていることが大切!

上手くつなげていきます。算数の学習の中で基礎となる観点をきちんと押さえていくことで学習の視点がぼやけず、思考の仕方ははっきりとしてきます。

中・高学年であれば、自分はまだ振り返りを進化させていきます。授業開きに子ども

も達にどのように取り組んできたか聞くようにしています。いろいろなやり方を子ども達は言いますが、『感想』とは違うことを伝えるようにしています。振り返りは『授業の中で出た友達の考えや発言とつながる』ように意識して書かせます。そうすると、友達の意見をよく聞くようになり、一緒に学習するのがもつと好きになっていきます。

そして、どの学年でも大切なことは、学習したことが他の学年とどうつながっているか、一年間のゴールを教師がしっかり把握し意識を持って指導しているかということだと思えます。四月は何かと準備に追われますが、授業開きの前に担任する学年の年間授業計画を確認するだけでなく、縦の系統も確認しておく、学習のつながりを考えた指導となっていくと思えます。逆に、このことが意識できていないと学びがたがらず、ぶつ切りの指導となってしまうます。算数は既習をどう生かしていくかが大切な教科。友達と共に考え、学んだことがつながる楽しさを味合わせ、教室をたくさん人の大好きでいっぱいになりたいものです。

「この子も伸ばす」を本気で考える連載 78

「意欲格差」に負けない！公立小学校へ

事務局長 岡本 美穂

1つ1つレポート

第6回大阪府東大阪市長弥刀小学校 へ伝え合う力でつながろう

国語の授業は「読み上げ漢字」からスタートします。「読み上げ漢字」とは、各自でワークシートの漢字を読み上げていく活動です。ワークシートには教科書に登場する漢字がすべて書かれています。読み終わったら「はいー」と挙手し、先生にタイムを教えてもらいます。個人で取り組んだ後は、ペアで聴き合い、「全部あつてるよ」「何個かとんでるけど」と互いに気づきを伝え合います。

■「自分めあて」をもつ

単元のめあては「複数の情報を関連づけて読み、プラスチックごみの問題に対する考えを伝えよう」、本時のめあては「資料①と②を読み比べよう」です。「ここであいう資

料とは、本文の後に掲載されている教材のことで、生分解性プラスチックという新しい技術に関しての資料①と、使った漁網がかばんに生まれ変わるという資源の有効利用に関する資料②が掲載されています。

単元と本時のめあてを確認したら、一人一人の「自分めあて」を立てていきます。「自分めあて」を考えることで、教材を「自分事」として捉える力を養います。

■「大きな発問」

みんなが参加しやすい「大きな発問」から話し合いが始まります。今回の「大きな発問」は「資料①②から分かることを教えてください」です。一斉に手が挙がり、発表者が発言をするときは、クラス全体で発表者に体を向けて聞き入ります。

■「深める発問」

2つ目の発問は「深める発問」。「みんなだったら①と②どっちをおすすめした

い？」という発問を受けて、各自で5分間考えてからペアで話し合い、ノートに自分の意見をまとめます。



■振り返りにタイトルをつける

自分の考えを伝え合う時間が熱を帯びたまま、授業はあつという間に終わりの時間を迎えました。授業の振り返りとして「これからの未来に大切な方法としてどちらが良いか」をノートにまとめます。子どもたちのノートには、今日の発問や振り返りについての考えが溢れんばかりに書かれています。

■Q&A

Q 「国語の授業づくりモデル校」における「学力向上支援コーディネーター」の役割について教えてください。

自分で授業を行うことはしませんが、全学年の授業に参加し良い点や改善点があれば言語化して伝え、授業の中で生じる疑問や悩みについては一緒に考えています。また、教職員研修や教材の充実を進めています。

Q 国語の校内研究をどのように進められますか？

研究主題は「伝え合う力でつながろう」です。当校は先生が互いの授業を見合う機会が非常に多く、特色ある授業が自然と生まれています。4月の研修開きで、「学力向上の道しるべ」という冊子や基礎実態調査(4・7・12・2月実施)を基にしながら、各学年の強みや課題を話し合う。そして5月に全職員公開授業を行いそれぞれの授業を見学し年度内に6回の研究授業と研修

を行っています。互いの授業を見るのが当たり前の雰囲気なので、良い授業を共有しながら授業力向上を図っています。

Q 子どもたちの国語力を育むために、どのような取り組みをされていますか？

「クラス会議」

上越教育大学の赤坂眞二先生にも校内研修を依頼して「クラス会議」という取り組みを行っています。

「クラス会議ボックス」に自分の困ったことや、みんなで話し合いたいことを入れて、みんなで話し合いを行ってきました。「クラス会議」は、国語における「話す・聞く」の実践の場になっています。

「百マス作文」

「条件づけて書く力」を課題として捉えており、朝学の時間を使って、定期的に「百マス作文」に取り組んでいます。10分で百マスの作文にチャレンジして、書いたものを五・七・五にまとめる活動です。学年の実態に応じてテーマを設定。書けない時期や

「書くのが面倒だ」と思ってしまう時期もありますが、先生側があきらめずに積み重ねていくことで、書けるようになってきました。



<https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/ten/download/2025/2025037273.htm>

特集して頂きました。

グラフと表で数学的思考力を高める

『新しい算数2上』（令和6年度版、東京書籍）の最初の単元は、「グラフとひょう」である。（次頁上参照）

面白いと思えたのは、すごく道徳的だったことである。

まず、「クラスのみんなともつとなかよくなるには？」という大きなめあてがあり、しほさんが「クラスのぜんいんであそべば、もつとなかよくなれそうだね。」と言い、それを受けて、こうたさんが「みんなに、したいあそびを聞いてみよう。」と提案している。

そして、「しほさんのクラスでは、クラスのみんなでしたいあそびを1つ書いて、黒ばんにはりました。」と説明があり、担任の先生が「24人ぜんいんはりましたね。」と言っている。

こうして、黒板に貼られたものに対して、「みんなが書いたあそびについて、気づいたことを話し合ってみよう。」とあり、はる

とさんが「いちばん多そうなのは…。」と言、みさきさんが「ぱつと見てわかるようにしたいな。」と投げかけている。

そこで、ようやく○をつけていくグラフを書くことになるわけである。

そして、グラフを書いてから、ひょうにまとめさせている。

一方、学校図書も同じ単元でしているが、タイトルが「ひょうとグラフ」になっている。（次頁下参照）

東京書籍と逆なわけである。

これ、どちらが算数を教える上で理にかなっているかといえば、これは東京書籍だろう。

「一対一対応」が算数の初歩であり、「数える」というのは、その後に来るからである。

理系大学進学に必要な四つの能力

秋山仁『数学に恋したくなる話』（2010.11PHP 研究所）で、秋山氏は、次

のように語っている。

「数学をやるのに特別な頭なんて必要じゃありませんよ。100年に一人といわれるような天才数学者の脳は別として、理系の大学に入って卒業するぐらいまでの数学をこなすには、次の4つのことができれば基本的に十分な能力があるといえると思いますよ」

その4つのこととは、

- ①自分の靴を揃えて指定されている自分の靴箱にしまえる。
- ②知らない単語の意味を、辞書を引いて調べることができる。
- ③カレーライスが作れる。（レシピを見ても良い）
- ④最寄り駅から自宅までの地図が書ける。

①～③は、学校で教えていることばかりである。（③のカレーライスは、林間で）
④の地図も、三年の自分の町を描かせるときに教えているともいえる。

数学的思考法について著書を何冊か出している永野裕之氏がブログの中で、右の四つの能力を分かりやすくまとめている。

しば

みんなに、したい あそびを
聞いて みよう。



24人 ぜんいんが
はりましたね。

ドッジボール
なわとび
おにごっこ

ドッジボール
フリスビー
おにごっこ

ドッジボール
いすとりゲーム
おにごっこ



はると

ぱっと見て
わかるようにしたいな。



1



何く

1年のときは、はしを
そろえて ならべた 絵に…
絵が ない ときは…

D
ひょう
グラフ



2 おにごっこをしたい人は、何人ですか。

3 グラフの人数を、下の **ひょう** にあらわしましょう。

したい あそびと 人数

したい あそび	ドッジボール	なわとび	おにごっこ	フルーツ バスケット	いすとり ゲーム
人数					

● 漢文題

グラフで、はしをそろえる ところは、1年のときと
同じだね。ちがうところは、絵を…。



このままだと
くらべにくいね。

1年生のときは、
なればかえたね。

やさいの 大きさを
そろえないと
いけないね。

かにも、わかりやすい
らわし方が
きないかな。

ひょうと グラフ

せいのりのかたし

1 そだてたい やさいを せいりしましょう。

① それぞれの やさいを えらんだ
人数を、つぎの ひょうに 書きましょう。

ワッセル
同じ なかまに
分けると、ひょうし
しやすいね。

そだてたい やさい

やさい	ミニトマト	キュウリ	エダマメ	ナス	ピーマン	ニガウリ
人数(人)	7					

② それぞれの やさいを
えらんだ 人数を、○を つかって
グラフに あらわしましょう。

そだてたい やさい

まとめ ひょうは 数で
あらわされて
わかりやすいよ。

まとめ ちがいが
一目で わかるのは
グラフだね。

③ エダマメは
何ばん目に 多くて、
何人ですか。

どれを
そだてれば
いいかな。

どれを
そだてれば
いいかな。

⑦ ほかのものも、ひょうや グラフに せいり できるのかな？

① 1対1対応の概念が分かる

…自分の左右の靴を対応させ、さらに指定されている自分の靴箱に対応させることができるのはすなわち1対1の概念が分かっている証拠です。

② 順序関係を理解できる

…例えば「study」ならaはアルファベットのaの後で、次のbとcの間の文字で…と26文字のアルファベットについてその順序関係が分かっていることが必要になります。

③ 手順を整理し実行&観察ができる

…ひとつの料理を作り上げるには、材料を揃え、作業の手順に従って適切な処理をし、経過を観察する力が必要です。

④ 抽象能力がある

…地図を描くという作業は3次元空間を2次元平面に落としこむ作業です。その際には余計な情報を削ぎ落とし、道順に必要な情報だけを抜き出して表現する抽象能力が要ります。

(以上、永野裕之氏のブログより)

靴箱には、たいいてい学年組が表示され、それぞれの入れる所には出席番号のシール

が貼られている。これは一年生から靴箱に靴を入れていくから、自分の場所を間違える子はほとんどいなくなる。ただ、揃えていられるかどうかは、子どもによって違う。揃えて入れられるのは、数学的能力が高い証拠なのかもしれない。

辞書は、四年から使い出すが、一人一台端末になると、いきなり調べたい単語を音声入力で調べることができてしまう。順序は関係なくなっていく。

レシピを見て何かを作る、という力は、圧倒的に今の子どもたちは弱くなっている。説明書を見て、勝手に次々と作っている子は、数学的能力が高いといえそうだ。抽象化の能力は、簡単ではないだろう。

三年で自分の町を描かせているが、六年にもやらせてみるといいかもしれない。きつと、うまく地図が描ける子は少ないと思う。よく調べ学習をするが、ネットにある情報をそのまま写す子が多い。余計な情報を削ぎ落とす能力が弱いのだろう。

表を使うことで問題が解ける

一対一対応によってグラフを描くことで、数量の違いを視覚的に比較できるよう

になる。

では、表にすることには、どんな効果があるのだろうか。

表の効果を実感するために、次の問題を解いてみよう。

「みつきさんの組で、お兄さん、お姉さんがいる人について調べました。

みつきさんの組の人数は36人で、お兄さんがいる人は12人、お姉さんがいる人は9人、どちらもない人は18人です。

では、お兄さんやお姉さんもいる人は、何人ですか。」

これは、四年の算数教科書に載っている問題である。

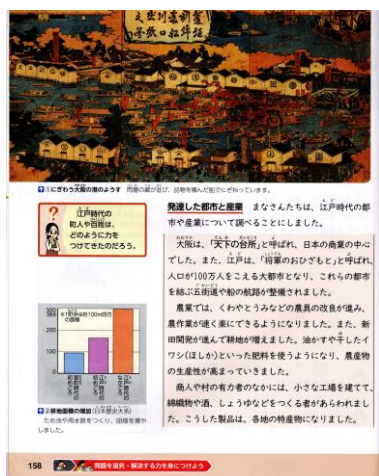
計算だけでは難しい問題も、下の表(カルノー図)を使うことで、容易に解けるようになる。
グラフや表をうまく使うことで、考える力(数学的思考力)を高めることができる。詳しく見ていく。

		お兄さん		合 計
		い る	いない	
お姉さん	い る			9
	いない		18	
合 計		12		36

今回も日本文教出版のP158、159の「発達した都市と産業」の授業を素材に述べていきます。

一、説明的社会（歴史）授業になっ
てしまふ。「困った。どうしよう。」

今年度授業するにあたって、どこを扱おうか。和歌山に関わること。特産物！和歌山が最初に作ったと言われている「醤油」を扱いたいという思いが先にありました。教科書には、「発達した都市の産業」の中に特産物で「しょうゆ」が書いてあります。



今年は「醤油」でいこうと決めたが、教科書を読んでみると、醤油はメインではありません。酒づくりの様子の図はありますが、醤油は、江戸時代のおもな特産物と交通の中に湯浅のあたりに、特産物として「しょうゆ」のマークが示されているだけでした。

「困った」この教材をつかって、子ども（学生・先生方）に考えさせ、謎をといっていくおもしろさを体感していく授業ができるのか。現場にいた時には、こういう箇所は、教科書を読み、説明しながら板書して



い、くやり方をやっでごまかして授業をしていました。「説明的社会（歴史）授業」です。教科書の奥に何もみえなかったのです。考えていてもしょうがないまずは、行動だと醤油工場の見学をすることにしました。

7月18日19日に湯浅見学、7月25日26日27日と銚子と野田を見学して、醤油に關しての知識を深めてきました。

教科書P158には「商人や村の有力者のなかには、小さな工業を建てて、綿織物や酒、しょうゆなどをつくる者があらわれました。こうした製品は、各地の特産物になりました。」

P159では「このころに生まれた特産物の多くは、今でも各地に残っています。たとえば、陶磁器や絹織物、綿織物、和紙、酒、しょうゆなどがあります。」

P158、159にまたがって「しょうゆ」の記載があります。しかし、どうもしくくりとこないのです。P158には、「にぎわう大阪の港のようす」が大きいのつています。この絵は、指導書によると、「どんなことが分かりますか。大阪港にたくさんの人や船が集まっている、何をして

いるのだろう。海ぞいにたくさん蔵が建っている何が入っているのだろう。」大坂は「天下の台所」と呼ばれ、日本の商業の中心地として栄えたことを気づかせることを目的にしていました。

調べるとこの絵は、「菱垣新綿番船川口出航之図」で、秋に収穫した「綿」を江戸に運ぶ際に、各船が競争させたイベントの様子を描いた図です。特別な日です。大阪周辺では綿を多く栽培しており、その綿は江戸などで高値で売れたのです。また、綿を栽培するには、「イワシ」などの魚が「肥料」として求められました。

教科書P158の記述は、3段落からできています。1段落目は、天下の台所の説明。2段落は、農業が発達したことが書かれて、肥料のことが記述され、3段落目に「綿織物」「醤油」などの特産物の解説になっています。

大きな絵が「綿」を運ぶ様子で、「綿」を栽培するためには「肥料である魚」が必要。それが、「綿織物」「醤油」などの特産物につながると書いているのです。

改めて、教科書はよくできているなど感

じました。

では、醤油はどうつながるのでしょうか。綿の肥料として需要が高まった「イワシ漁」は、関西だけでなく、関東にも広がりました。漁法が関西から関東に伝わりました。和歌山出身（広村）の崎山二郎右衛門は、銚子の外川に移り、イワシ漁だけでなく、町並みの整備にも携わりました。崎山二郎右衛門に続けと、広村出身の濱口儀兵衛が銚子に移住し、醤油造りで創業しました。広村の隣町には湯浅があります。

関東での醤油造りが始まり、関東独特の濃口醤油が広まり、江戸の食生活に寄与していくことになりました。江戸時代には、それぞれの地域で特産物が生み出され、江戸の商業は広がっていくのです。

教科書の内容は、このように読み解いていくと、「つながりのある」授業になっていきました。

二、授業感想（つながりについて）

「私が今回の講義を受けて最も印象に残っているところは、話題と話題の間がとても滑らかにつながれているなという点です。初めはお米の話をし、次に綿、さらに鰯、

醤油といったように、後になって思い返せばかなりの内容が入っていたのにも関わらず、時間が長いとか内容が多いという感覚は受けなかった。その理由を考えてみると、その話題の中に次の話題につながる場所を見つけ出し、また次の話題につながる場所を見つけ出すという流れになっているからなのかなと思いました。」

「今回の教材は綿をはじめとして魚や醤油など要素がとても多く、話をつなげるのがとても難しいように感じましたが、いざ授業を受けてみると、話の節目に違和感がない、とても滑らかなで且つ関係ない話がつまらないため、すべての話が繋がっている美しい授業だったと感じました。」

「江戸時代の産業の発展というところは、とても内容が多くて（文化の時によくあることですが）、たくさんの方をどんどん一方的に教える授業になりがちです。せめてと思い、パワーポイントや持っている資料を見せたりはするのですが、様々な文化を『つなげる』という発想はありませんでした。同じ時代の文化なので、どこかつながるのだと気づきました。」

学力研 春の大分集会 新年度スタート講座 in 大分

報告者 常任委員

2025年3月30日(日)

学力研の地域集会が大分県で行われました。大分県での講座開催は約10年ぶりになります。10年前は久保齋先生が年に2回来県され「丸一日久保講座」が行われていました。久しぶりの講座ということもあり、人数が集まるか心配されましたが、4月から初任者となる大学生から退職された先生まで、幅広く多くの人が集まり活気ある講座となりました。また、当時初任者として参加されていた先生が研究主任として参加されるなど、各学校の中核として活躍されている姿に、月日の流れとともに頼もしさを感じました。新たな会員も増え、学力研にとっても、新年度を迎える先生方にとっても良いスタートになりました。このつながりを大切にしながら、今後も一緒に学んでいきたいと思えます。3人の講師の講演内容を報告させていただきます。

講座①荒井賢一先生

荒井先生は、授業づくりの名人です。「考える力をつけるための授業の組み立て方」をテーマに、1年間を通して子どもたちが授業に全員参加しながら考える力を高めていくための授業づくりについて模擬授業を交えながら大切なこと話してくれました。子どもたちに、いきなり考えるような発問は授業の難易度を上げ、子どもたちは発言をしなくなります。4月や単元の始めは、クラスのみんなが答えられるマルチ発問（答えがたくさんある発問）をすると良いそうです。例えば、理科の授業の始めに「知っている生き物を一人一つ答えましょう」と発問すれば、会場の先生方は「とんぼ」「蝶」「ミミズ」などと順番に答えていきました。このように、長期記憶を使って、誰でも答えられる発問で授業を進めていきます。また、社会科では教科書の単元のはじ

めのページにある町の地図を見ながら「この町にあるものを一つ答えましょう」と問えば、「デパート」「道路」などと次々に答えていくことができます。その中で、「陸橋」と答えた子がいれば、「陸橋って何か分かる」と尋ねるそうです。子どもたちは、意外と知らないことがあるようで、このようなことをしながら知識を入れていくことも大切に行っているようです。その次に、「この町の季節、時刻はいつでしょう」と抽象的なことを問うと情報を読み取りながら考えていくことにつながります。このような授業づくりについて道徳や算数など様々な教科ですぐに実践できる授業づくりも話してくれました。

講座②岡本美穂先生

岡本先生は、学校の中核として学校づくりで全校の子どもを育てています。「みんなでも、ひとりでも、できる力を育む学級づくり」をテーマに国語科の授業を中心に話してくれました。一見、岡本先生にしかできないような実践に感じるのですが、学校づくりの担い手であるように、どの学級でもどの先生でも実践できるようにポイン

トを押さえながらスモールステップで丁寧に話してくれました。説得力のある話は初任者からベテランの先生まで、明日から自信を持って授業を行える内容でした。岡本先生は「聴くこと」を土台に授業づくりや学級づくりを行っているそうです。その時に「何で聴くことを大切に行っているのか」という目的を共有するそうです。どの学校でも聞き方ピラミッドなどがあると思いますが、教師が作成して各教室に掲示されます。しかし、岡本先生のクラスでは、目的を共有することで子どもたちが聴き方ピラミッドを作成するそうです。そうすることで、自分事となり教師も子どもも大事にしていきます。授業でも同じように、「どのような伝え方がよいか」「どのような交流をするか」と投げかけ子どもたちと授業をつくりあげていきます。このように、一緒に授業をつくりあげていくことで、子ども同士をつなげていきます。子どもたち同士がつながると、授業の中で、いつもお互いに聴き合える雰囲気ができます。学力づくりを行う過程を大切にしながら集団づくり・学級づくりを行うそうです。

講座③久保齋先生

久保先生は、2時間30分の講座でしたが、最後まで熱量が高くパワフルな講座になりました。最新の教育情勢をもとにどのような実践を行えばよいかについて話をしてくれました。大きなテーマとしては「教師権能の復権」です。教師の仕事はクリエイティブな仕事であるということです。もともと、教師は構想をして実践を行う権能（できること）が与えられていました。構想とは、具体的には4月に教材を選び、クラスの子どもたちの実態に合わせて授業を考えることです。しかし、新自由主義のもと全ての共有財産を商品に変えられていています。その一つがGIGAスクール構想のもとで導入されたタブレットです。国策として導入された以上、学校現場では否応なしに使わなければいけませんし、成果が求められます。その結果、ある市では、全市統一で全ての小学校に同じデジタルの宿題が配布されています。子どもの実態に合っているのかではないのです。また、宿題の丸つけはデジタルで行われ、教師は宿題の中身のチェックではなく、宿題をやっ

ているかいないかのチェックをするだけだそうです。また、授業でも一つのデジタルコンテンツが共有され、それぞれの教師が創意工夫することができません。昔は、提供された教材は、クラスの実態に合わせてそれぞれの教師が創意工夫することができました。子どもたちは、教師が自分たちのために創意工夫してくれることに、心を寄せ、授業に惹きつけられます。構想は、教師の一番の醍醐味です。その部分を奪われ、今はやらされているだけの仕事になりつつあります。教師のやりがいが奪われ、疲弊感だけが溜まっていきます。そうならないためにも、ある教科、またはある単元だけはタブレットを使うが、ある教科や単元は板書とノートで指導すると分けて使うべきだと主張されていました。2023年5月29日の朝日新聞の記事に、東ロボくん開発主導の新井紀子さんが「鉛筆を使う、線を引く：原始的な体験を積んで」という記事を紹介されました。

ここでは、講座の一部しか紹介できていません。講座への参加をお待ちしています。一緒に学びましょう。

子安 潤著『貧困化する授業からの反転』（学文社）の紹介

金井 敬之

ICT教育批判の根底

本書は「ICT教育が進むと教育の画一化・貧困化が拡大する」ことを様々な側面から分析している書籍である。

子安氏のICT教育の批判の根底には「教え学ぶ世界には丹念な準備が必要だが、準備で完成するわけではなく、教え学ぶ者たちの絶えざる即興との複合によって生み出されていくもの」があり、「準備された世界から出ることのできないデジタルでは、人の教えと学びの主役にとって代わることがいつまでもできない」という考えがある。大学の教員らしい表現だが、小学校教員らしく言い換えてみる。

「教師は事前に教材研究等の準備をして授業に臨むが、実際の授業では子どもの発言やつまずきなどで臨機応変に指導計画や流れを変えていかなければならないものである。

る。一方、ICT教育は、あらかじめプログラミングされた流れに従って授業が行われるので、教師と子どもが創る授業には及ばない」ということになるのだろうか（言い換える必要はなかったかもしれないが）。

ICT教育は、単にタブレットやパソコンが授業に導入されるだけではなく、デジタル教科書をはじめとして、「教育方法」が統制（強制ともいえる）されるのである。授業の進め方や配付するプリントなどが共通する傾向が強いので、授業が画一化していく。このように、画一化の一番の原因は、PCの利用とその強制にある。しかも、タブレットPCの普及とその利用推進を急ぐ産業優先の政策のために、教育活動にとっての必要性や妥当性の検討が置き去りにされている。

多忙な教師や教材研究に十分な時間をと

れなかった教師ほど、プログラムに乗って授業を進めることになる。こうして恐ろしく画一的な授業が「令和の日本型教育」として大量生産されることになる。教師の多忙化、「履修主義」、民間教育団体の後退、教職員組合員の減少などもICT教育が浸透しやすい要因になっていると思う。

授業が画一化すると、教師は授業の工夫をする必要がなく、教材研究、発問や指示を吟味したり、つまずきを授業に生かす力などを身につけたりすることができない。授業の貧困化が起こるのは当然のことである。

GIGAスクール構想が生んだもの

GIGAスクール構想とは次の3つのことである。

- ・すべての小中学校にタブレットもしくはノート型PCの配付
- ・PCをインターネットに接続するための環境と機器の整備
- ・それらを教育活動に利用する教育と行政の推進

子安氏はこれがすべてと言い切る。そして、これが効果的かどうかの議論はされな

かったし、「適切に活用」という言いつつ利用を強制する動きが全国展開した。それによって教育活動の単純化がすすみ、貧困化が加速した。

「個別最適な学び」であればクラスごとに違う授業となるはずが類似の授業になる。個別化や教育のICT化は、教育を多様化させるように見せて、画一的な教育をむしろ生んでいる側面がある。

デジタルの世界は、「確率的に人・物事を分配し、分類に応じてデジタルが得意とするコピーアンドペーストされた同じ教育・モノを配分する。規格化された枠組みに子どもを落とし込んでいく」だけである。デジタル化は教育活動を簡素化するが、教師の教育活動から考えることを奪い、子どもに貧困な学習を呼び起こすのである。

現状を反転するには

このような現状を反転するには次の2つのことが必要だと氏はいう。

- ・教師に教科書の採択権と教材選択権を広く公認すること
- ・子どものわかり方や思いもしくはリアルな声に注目すること

思いを聴くと考えさえすれば、教育は変わり始める。子どもが何をわかったがつているか、わかりにくさが何に起因しているかを探るように聴かなければならない。テストの点数やアンケートではなくて、生の声を聴くことが重要である。わかったことしか書かせない制度化された「ふりかえり」は声を聴いたことにはいらない。

教育のデジタル化は一面で教師の仕事を軽減させる側面をもつために、それらのデジタルアプリを深く考えることなく利用することが増えるという危険性を氏は指摘している。

教師の指導性の復権

教師の教える活動を衰退させて「子ども中心」などありえない。教師の自立性を奪い、画一的授業方式を押しつけて「個別最適な学び」などあり得ない。

子どもがもつとも学ぶのは、子どもに学ぶ活動を引き起こすように誘う教師の教育活動が旺盛に展開されるときである。(ここまで読んで、知的でおもしろい授業をされる学力研の荒井先生を思い浮かべた)。

教師の指導性の後退を復権する必要がある

る。「子ども中心」というスローガンが広がっているが、教師の専門性に裏付けられた指導性のあつてのことであり、好きに学ばせて子どもの豊かな理解が生まれるわけではまったくない。

子どもの学びは、教師による学び活動の世界へと誘うという高度な専門職としての知見をもった教師がいて成立していくのである。主体は主体である他者がいて主体となる。その意味で、子どもの自立は、自立した専門職の教師の存在とともに達成されていくのである。

子安氏の考えは明快である。

さいごに

「ICTにできないことこそが子どもの学びには必須であり、それらのできないことをできるのが教師である。」と主張する子安氏の本書におけるICT教育の批判の裏には、「教師はもつと高い専門性と身につけて、ICT機器に授業を丸投げしないで、子どもたちと、画一的でない豊かな授業を創り上げてほしい」という願いや要求があると思う。

厳しい問題提起である。

大きな成功『スマホはどこまで脳を壊すか』の講演

家庭塾連絡会 吹田・相原美樹、栗井富枝

昨年8月に家庭塾連絡会に入会させていただきました相原です。現在中学3年の息子の中高一貫私学校でPTA役員をしております。同じ学校で役員をされている家庭塾連絡会員、栗井さんのご紹介で昨夏の学力研・家庭塾連絡会合同大会での講演会に参加し、榊先生の『スマホはどこまで脳を壊すか』のご講演を聴き大きな衝撃を受けました。

この話は、多くの保護者、いやスマホを与える側のすべての大人が知っておかなければ、これからの社会が大変な事になる、と中3のわが子を含め危機感を覚える内容でしたので早速、同タイトルの著書を読みました。そこにはさらに詳しく、スマホの使い過ぎが思考の中核である「前頭前野」の発達を阻害し学力を「破壊」してしまうこと、タブレット学習では脳がはたらかない、オンライン会話では脳と脳が同期しない、

い、オンライン頼りが認知症リスクを高めることなど、知れば知るほど恐ろしい事実が仙台市と東北大学の共同研究から明らかにされていました。

PTA主催で学校に榊先生をお呼びすることはできないだろうか、という思いが浮かび影浦先生にご相談したところ、ぜひ取り組んでくださいと背中を押していただきました。教頭先生に、学校の空き会場と日時を調べてもらい、東北大学に電話をかけ、恐れ多くも榊先生に直接メールをするところからのスタートでした。

そして2025年1月25日、唯一視聴覚室に空きがある日のオフアを奇跡的に受けて下さることになりました。ところが、別のある役員から猛反発をくらいます。

「講演料が高すぎる」

「講演テーマが強すぎる」等々

私の考えが間違っている？と落ち込むほど

の攻撃を受け、その度に影浦先生にご相談しました。いつもの確なアドバイスと、こんなチャンスは二度とないのだから！と励ましのお言葉をいただけたことはとても心強かったです。役員内の意見調整と榊先生への依頼内容変更を繰り返すという、本当に胃の痛い作業をする中で自分の無力を思い知ることになりましたが、様々な取り組みを最後まで頑張りました。

そして当日。お手伝いに手を挙げて下さった委員さん達のご協力と、微に入り細に入り影浦先生のアドバイスがちりばめられた講演会は大盛況でした。保護者と先生、60名以上が熱心にメモをとり、うまく言葉で言い表せないのですが、会場はとにかく熱意に満ちた空気で溢れていました。質疑応答も活発に質問があり時間が足りないくらい。講演後も榊先生の前には質問の列ができ反響の大きさにとても驚くとともに協力して下さった方々への感謝の思いでいっぱいになりました。参加者の方々のアンケートはほとんどの方が「大変良かった」と数名の「良かった」とあり、内容がいかに素晴らしかったかがうかがえて本当に嬉

しかったです。

校長先生、教頭先生も参加して下さったおかげで、後ほど校長先生からは「生徒と先生向けに講演会をお願いしたい」と榊先生にお話が あったそうです。榊先生からは、「またの機会があればぜひお声かけください」と応えられたそうです。

そうなのです、本当は子供たちに聴いてもらいたかった。講演の中で榊先生は、家族で「話し合い」をする大切さを何度も語ってく下さいましたが、やはり第三者から膨大な立証データをもとに視覚に訴えるお話を聴くことは、子供たちに相当なインパクトを与えます。

年度初めに決定している学校行事に、PTAは介入できませんが、まずは保護者対象で企画した講演会がもししたら学校を動かすことになるかもしれない、と少し期待しています。

講演会の後、校長室では二名の先生が同席して、タブレット学習について率直な質問があり、榊先生はとても丁寧に答えてくださり和やかな雰囲気です。学校を後にしました。

その後は、喫茶店を経営されている栗井さんのお店で、フライト時間までお過ごしただくことになっていましたので影浦先生にもお越しいただき榊先生を囲んでのコーヒースタンド。美味しいカツサンドで話も弾み、リラックスした雰囲気の座談会となりました。著名な川島教授の有力な後継者として、若さとエネルギーと魅力にあふれたお人柄を至近距離で感じることができるとても貴重な時間でした。

講演の一番初めに、榊先生が出されたスライドは、

『技術の進歩は、人間社会が同様に進歩しなければ、われわれを破滅に追い込む可能性がある。原子の分裂（原子爆弾）という科学の革命は、道徳的な革命も求めている。』

というオバマ大統領の広島でのスピーチの一文でした。

スマホという技術の進歩に、道徳（moral・人間の心）も一緒に進歩していかなければ我々は破滅の危機がある、という重大なメッセージです。

榊先生の著書は、次のように締めくく

れています。『GIGAスクール構想では、一人一台端末が確実に子供たちの手に渡ります。賽は投げられたのです。約40年後の未来は、どちらに転んでいるでしょうか。21世紀を生きる私たちの手に握られているのは、スマホではなく人類の未来です。』これから少子化が進む中で、一人ひとりの子どもたちをもっと大切に教育していく必要がある、社会全体で子供たちを育ていくことが大切、と考えられている榊先生の著書には、その思いが切々とつづられています。

もし、榊先生をお呼びできたら、きっと素晴らしい講演会になる。最初はぼんやりとしていた希望が、榊先生と沢山の方の後押しで現実のものとなり夢のような一日でした。

小さなPTAの一企画が、少しでも誰かの心に響いてくれることを願いながら、自身のスマホとの付き合い方も見直しています。短期間で、しかも苦労も多々ありましたが、栗井さんと二人で頑張りぬき集会を成功裏に収めた事は、私達二人の大きな財産となりました。

局長だより 4月

◇学力研最新情報 岸本 ひとみ ●この春、嬉しかったこと

先日、所用で町役場に行ったところ、なんと！親子2代の教え子が、新卒で配属されている部署でした。まだ、勤務して3日目のことで、必死で仕事を覚えようとしている様子に、声をかけるのははばかれたので、姿だけを見て、そのまま帰るつもりでした。

しかし、窓口担当者から校名と名前を呼ばれてしまったのでした。彼は、はっとして顔を上げ、こちらを見て笑顔で、頷いてくれました。私は、思わずピースサイン。これでは、どちらが先生かわかりませんよね。

後で、彼の同じ部署の先輩にあたる、これも教え子に、

「先生、用事あるって、振込でもいいのに、わざわざ来てるやろ。」

と、ニヤリと笑いながら、言われてしまいました。バレてましたね。校務分掌の関係で、

「たぶん毎月通うことになると思うわ。」
と言うと、
「席を外しても、必ず声をかけてや。」

とのこと。教え子というのは、何とありがたいものかと思いました。長くこの仕事をしていると、あちこちでこんな現象が起きます。長く働き続けられるのは、ありがたいことです。これも、学力研のブレないスタンスのおかげです。

会費・参加費振込先

ペイペイ銀行 うぐいす支店

店番008

普通口座 3607141

名義 スギモト マナミ

◇事務局だより 岡本 美穂

●学力研年間会員(4000円)になると、年会費のお支払い以降、学力研主催のオンライン研究会に無料で参加できます！

特典

- ① オンライン講座無料
通常は1回1000円です。
- ② 対面講座500円引き
申し込みについては3月から1年間有効。(3月↓3月)
※8月以降のお申し込みのかたは2000円となります。

◆春の先生のための学校

オンライン開催

4月13日 (日)

<https://www.kokuchpro.com/event/1b7cf806cdf829bb80885895e9227319/>

5月18日 (日)

<https://www.kokuchpro.com/event/8e1b406ab4858ca68ecfb65df76bd5/>

◆1年生講座

オンライン開催

学びたい人が集う、学びたい人と語る楽しくて新しいオンライン研究会です。通常1000円

第3回 4月26日(土) 国語

「はじめての物語文・ひらがな・音読」算数「10までの数」

第4回 5月24日(土) 国語

「はじめての説明文」算数「たし算・ひき算」

第5回 6月28日(土) 国語

「大きなかぶ」算数「ひき算と習熟」「懇談・所見・夏休み前」

第6回 8月23日(土) 国語

「カタカナと漢字」算数「3つの数の計算」

第7回 9月27日(土) 国語

「くじらぐも」「サラダで元気」算数「くり上がり」

第8回 10月25日(土) 国語

「じどう車くらべ」算数「くり下がり」

第9回 11月22日(土) 国語

「たぬきの糸車」算数「大きな数」

第10回 1月24日(土) 「文字と計算の習熟」「2年生までにこれだけは」

申込みいただいた方には、一週間以内に学力研年間会員の申込み完了メールを送付いたします。

学力研カレンダー

《各地のサークル・部会

2025年 4月

例会、イベント》



どなたでもご参加いただけます。お誘い合わせのうえお越しください。お待ちしております。

※会場等使用状況により、変更の可能性もありますことをご了承ください。

4/

- 19 (土) みなみ学力研 9時半～12時 阿倍野区民センター 図書 nobu580701@yahoo.co.jp
26 (土) 大阪教育サークルはやし 午後 エルおおさか 荒井 aik28501@bca.bai.ne.jp
伊丹学力研 18時半～ ※阪急武庫之荘駅近く 前田 090-9715-3830
25 (金) いろえんぴつ (加印) 18時半～ なんなん広場会議室 岸本 090-9117-6330
春日井学力研 18時半～ レディヤン春日井(JR勝川駅) 山口 080-6904-1697
オンライン開催のサークルには、参加方法を連絡先にお尋ねください。

下記サークルも活動していますので、翌月以降の日程のお尋ね等はこちらでご連絡下さい。

- 持ち方書き方研究会 ライン会議で行います。日時や参加のしかたはご連絡を 前田 090-9715-3830

《全国キャラバン等 今後の予定》

○ 春の先生のための学校【全3回】

3月23日(日) 13時～15時【済】

4月13日(日) 13時～15時

5月18日(土) 13時～15時

オンライン

○ 学力研・新学期スタート講座

4月5日(土) 13時半～16時半

エルおおさか

○ 1年生講座 第3回 4月26日(土) オンライン

(詳細はメルマガ「まぐまぐ」、「こくちーず」などで)

(講師派遣希望、サークル情報などは 事務局へ 079-426-5133)

ご意見・ご感想は下記まで

荒井 賢一

E-mail aik28501@bca.bai.ne.jp

李 詩愛

E-mail iwamotoshie@gmail.com

堀井 克也

E-mail katsuya4k1h9@gmail.com

会費振込先

ペイペイ銀行 うぐいす支店 店番008 普通口座 3607141 名義 スギモト マナミ